

FileMaker 資格認定をビジネスに役立てよう

－ 開発者にとってもエンドユーザにとっても、エキスパートの確かな基準 －

新居 雅行 著

©2009 FileMaker, Inc. All rights reserved. FileMaker、ファイルメーカー及びファイルフォルダロゴは、米国及びその他の国において登録された FileMaker, Inc. の商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。

FileMaker は、個々の独立した提供者により製造されここに紹介される製品の性能や信頼性について、明示的であれ、黙示的であれ、なんらの保証もおこなうものではありません。協定、合意、または保証は、たとえ交わされるとしても、すべて提供者と将来のユーザの間において交わされるものとします。製品の仕様や提供の可能性は、予告なく変更される場合があります。

本書類は、一切の保証なしに“現状のまま”提供されるものであり、FileMaker は、黙示の商品性の保証、特定の目的についての適合性、非侵害の保証を含め、一切の明示あるいは黙示の保証を否認します。FileMaker ならびに FileMaker の供給者は、直接的損害、間接的損害、偶発的損害、結果的損害、営業利益の損失、懲罰的損害、特別損害を含め、このような損害が生じる可能性についてたとえ知らされていたとしても、いかなる損害についても一切の責任を負わないものとします。法域によっては、無保証あるいは責任制限を認めない場合があります。FileMaker は、本書類を予告なくいつでも変更できるものとします。本書類はいずれ時代遅れとなるかもしれませんが、その情報を最新の情報にすることを約束するものではありません。

目次

目次	3
目的	4
資格認定を活用しましょう	4
開発者にとってのメリット	4
発注者にとってのメリット	5
FileMaker ソリューションの開発を業務にしている人たちにとっての価値	5
認定制度の是非	6
FileMaker 資格認定の取得のために	7
資格認定のあらまし	7
認定試験に合格するための知識	8
試験申し込みから受験まで	9
試験当日と実施に関する注意	10
コンピュータで受ける試験	11
試験に合格するための学習方法	12
復習が大切	15
まとめ	15
著者紹介	15

■目的

FileMaker 資格認定は、FileMaker, Inc. が認定する唯一の資格です。社内で使用する FileMaker ソリューションを開発している方も FileMaker ソリューションを顧客に提供することをビジネスにしている方も、FileMaker 資格認定を取得した方は、顧客、同業者や同僚に対して FileMaker ソリューション開発者としてのスキルや専門的知識があることを客観的に証明することができます。一方、ソリューションを発注するエンドユーザにとっては、発注先が十分な能力を備えているかどうかの判断基準となります。本稿では、筆者が考える FileMaker 資格認定が開発者に取っての必要条件となる理由や FileMaker 資格認定を得るための学習方法などを紹介します。

■資格認定を活用しましょう

資格認定と聞くと、試験を受けるのは面倒だとか、あるいは合格すれば収入アップが保証されているわけじゃないだろうという不満を持つ人も多いでしょう。確かに楽な話ではなく、それによって直接的なメリットは、すぐに目に見えて得られないかもしれません。しかしながら、開発者は何をやる人なのかを考えてみましょう。もちろん、顧客に対するソリューションを提供する人です。そのような立場の人にとって、「資格認定」は大きな意味を持ちます。

開発者にとってのメリット

資格認定を持つ開発者はどんなメリットを受けることができるのでしょうか。まず、一番大きなポイントは、開発者としての信頼が裏付けされることです。仕事を発注する立場の人にとって、資格認定を持っている人と持っていない人では、どちらが安心して仕事をまかせられるでしょうか？ 答えは明白です。資格認定のある人の方が高い信頼を得ることは間違いありません。

単純な意味でも認定試験に合格して資格認定を得ている人は、それだけで一定のスキルや専門的知識を持っていることの証明になるわけです。資格を持っていない人でも、スキルを持っていることは現実にはあり得ます。しかしながら、厳格に管理されている資格認定制度の上では、資格を持っている人がスキルや専門的知識を持っていないということは、ほとんど考えにくいことです。スキルや専門知識がなければ試験に合格しません。資格がない人はスキルや専門的知識があっても確かなものではないのに対して、資格がある人は確実にスキルや専門的知識がある人だと言えるのです。

資格認定を得るためには、認定試験に一定以上のレベルで合格しなければなりません。認定試験は、開発者として知っておくべきさまざまなジャンルを網羅したものです。開発者によっては、ジャンルによって得手不得手があるかもしれません。レイアウト作成なら任せてくれという人でも、ネットワークとなるとちょっと弱いと思うかもしれません。開発の現場はもちろん分業されていて、得意分野を中心にこなすこともあるかもしれませんが、ソリューションの提供という意味では、すべての開発者が主要なテーマに対して一定の知識を持つておくことは重要だと言えるでしょう。資格認定は、FileMaker 製品でのソリューション開発に必要なさまざまなジャンルをまんべんなくカバーしているということを証明するものでもあります。

自分のスキルに自信があると思っても、自己流での学習は思わぬ落とし穴があります。勘違いして理解していることもあるでしょうし、非常に重要なことなのにも関わらず、勉強していなかったということもあります。また、習得してから時間が経過してしまったために、変化した事情、新しい技術、または製品の新機能を理解していなかったり、新しい開発手法の話題について行けていないかもしれません。整理されていない知識を過信すると思わぬミスにもつながります。

認定試験を受けるために、改めて学習をすることで、最新の知識にアップデートしつつ、独学で理解した内容を改めて整理して理解し直すことができます。一度理解したことを再度学習することで、さらにレベルアップした理解にもつながります。

開発者の人は、自信を持って顧客に対して十分なサービスを提供できているかどうかを、常日頃から自問しているでしょう。がんばって仕事をして満足してもらいましたということで終わってもいいのですが、資格認定は確実に開発者の自信を裏打ちするものとなります。個人の開発者が、FileMaker ソリューションの開発者としてのスキルや専門的知識があることを証明するため、あるいは開発やソリューションサービスを提供しているSIの会社や社内のIT部署の開発者が、その組織の信頼を高めるため、疑いのない客観的な資格認定という基準を取得することをより高い優先度で検討すべきです。

発注者にとってのメリット

開発の仕事発注するエンドユーザの方も、FileMaker の資格認定があることをぜひとも知っておいていただきたいと、筆者は考えます。FileMaker の資格認定は、開発者に対するものであって、ソリューションの利用者であるエンドユーザのスキルや専門的知識をチェックする資格ではありませんが、その存在意義を知っていただき、開発の仕事に依頼する側の人は発注時の基準としていただけたらと思います。

資格認定を持っている開発者と持っていない開発者の違いは明らかです。資格を持っている人は、FileMaker ソリューションの開発の一定水準以上のスキルや専門的知識を持つと判断してかまわないでしょう。しかも、FileMaker の特定の分野に強い以上に、FileMaker 製品ラインのすべてを使用してより大規模で複雑なプロジェクトを開発するための専門的知識について一定水準以上の知識があることが証明されているわけです。一般的に見て、多くの開発者には得手不得手があります。特定のジャンルに対してはぎりぎりの得点しか得ていない場合もあるかもしれません。それでも、試験に合格した開発者は、すべてのジャンルに渡って学習をしているはずで、現実問題として、不得手なジャンルがあると合格は難しいものです。その意味では、資格認定を持っているということは、その開発者が自分の知らないことの多かった不得意な分野も取り組んで専門的知識を修得したというだけでなく、学習意欲や積極性を所有しているパーソナリティであることも、示しています。

FileMaker 社が資格認定は、FileMaker ベースのソリューションをエンドユーザ自らの手で自社業務に展開しようとしている方々に対して、それを成功させることを後押しするためにあると、筆者は考えます。いくら予算や構想、プロジェクトを遂行する意思があっても、それを十分なレベルで実現できる開発者がいなければ先には進みません。その開発者のスキルで実現できるかどうかは、過去の実績などでも評価はできますが、今現在のスキルのレベルで量りたいということもあるでしょう。そのためには、資格認定を保持しているかどうかということが、客観的な判断基準になります。

FileMaker ソリューションの開発を業務にしている人たちにとっての価値

FileMaker ソリューションの開発を業務にしている開発者は、大きく分けて2種類あるでしょう。1つは、他社のためにソリューション開発をビジネスにしているコンサルタントや受託開発者。もう1つは、自社内で利用するソリューションを開発する、いわゆる「インハウス」の開発者です。いずれの場合でも、FileMaker の資格認定は、開発業務の上で重要な位置づけになると言えます。

まず、コンサルタントや受託開発といった開発をビジネスにしている開発専門会社においては、優秀な開発者の雇用という課題があります。雇用する側にとっては、「FileMaker 資格認定保持」を条件に提示することもできますし、何人かの候補者の中から選択する場合には保持しているかどうかを採用の1つの基準にするということも可能です。もちろん、資格保持者が確実に仕事ができることを FileMaker 社が保証するという意味に取ると誤解になりますが、資格を持っているということは一定の基準をクリアしている証明になるでしょう。また、雇用者は、開発者が古いバージョンの資格しか持っていないのなら、最新バージョンに対する教育が必要といった見積もりもできるでしょう。

開発専門会社で内部のスタッフだけでは人手が足りない場合もあります。そうすると他社あるいはフリーのエンジニアなどと組んで仕事をするようになりますが、社外の開発者を募る場合も、資格認定の有無で、開発の仕事に依頼するかどうかを検討することは、やはり同様に一定水準以上のスキルや専門的知識を持っている方を採用するという意味でも確かな基準になり得るでしょう。

FileMaker ソリューションの開発を行っている会社は、FileMaker 社が運営する FBA (FileMaker Business Alliance) のメンバーになっている場合もあるでしょうし、検討している場合もあるでしょう。FBA は、FileMaker 製品ラインをベースにした製品やサービスを提供する企業向けに考案されています。これらの企業には、FileMaker 製品に関するコンサルタント、トレーナー、出版社、市販ソリューションプロバイダー、プラグインプロバイダー、およびホスティング会社が含まれます。FileMaker 社は、FBA の各社に資格保持者である FileMaker 認定デベロッパが何人いるのかという情報を Web サイトで明示しています。そのため、FBA 各社の FileMaker 認定デベロッパの有無や数を、エンドユーザも開発者も、誰でも Web で調べることができます。

FileMaker 認定デベロッパのページ：

http://developer.filemaker.com/search/results/?address_country=JP&company_name=&business_description=&business_industry=&address_state=&flag_certified=1

もしくは

<http://www.filemaker.co.jp/> のサポートのコンサルタントから認定デベロッパを検索できます。

インハウスの開発者の場合も、特に雇用する側にとっての基準になるのではないのでしょうか？開発者は、FileMaker ソリューションの開発スキルや専門的知識を持っていることを社内に対して示すことができるという点も重要です。エンドユーザ企業のインハウスの開発者が、IT 専任の技術者の場合も、営業部や業務部などの業務をしながら FileMaker ソリューションの開発や運用を兼務している場合も、資格認定の保持は有効です。特に後者の場合、資格認定の取得は、営業や業務のスキル以外にも IT に関するスキルや専門的知識も持っていることの証明になり、会社や部内でも名実共に、その実力を具体的に示すこととなります。さらに、資格認定を持っているということは、FileMaker 製品についての技術指導力の証明にもなりますので、FileMaker に対して詳しくない人からも評価される基準となり、同僚からの高い信頼も得ることができます。

認定制度の是非

認定制度は、さまざまなジャンルに存在します。それぞれ特徴があるというものの、どのジャンルにおいても、否定的な意見はつきまとうものです。持っていて意味がないと言い切る人たちも少なくはありません。本当にそうでしょうか？まず、直接的なメリットがないという意見はよく聞かれます。FileMaker 資格認定の場合、自動車の運転免許と違い、それを保持していなければ FileMaker ソリューションの開発はできないというものではありません。また、認定試験に合格すれば、賞金がもらえるとか、仕事を直接紹介してもらえとかいった、目に見えて収益につながるというものはないと言えば確かにありません。しかしながら、資格認定を取得した開発者は、顧客に対してスキルやエキスパートとしての知識を所有していることを客観的に証明することにより、顧客から信頼を得、仕事の受注につながっていることはまぎれもない事実です。資格認定を取得しても直接的な報酬を得られないという理由だけで、資格認定を否定してしまっただけでは、仕事を受注する機会をみすみす自らの手で失っているようなものですし、仕事に対する消極的な姿勢を示しているものと判断されても仕方ないでしょう。

一方、認定試験そのものが正しいスキル測定になっていないという意見が出てくることもあります。極端な例としては、資格認定を持っているのに仕事の質が悪い開発者がいると主張して、認定試験そのものを否定的に考える人もいます。しかし、資格認定は、特定の仕事ができることを証明するものではありません。繰り返しになりますが、一定水準以上のスキルや専門的知識があることを証明するものです。仕事を失敗しないことや、具体的な業務を成し遂げられることを保証するものではないということです。雇用する側の人、あるいは業務を依頼する人にとって、都合のいい基準ではなく、そうした方々も開発者と同様に認定試験の意義を理解していただき、意思決定の1つの規範とすべきと、筆者は思います。

特にベテランで実績のあるような人の中には「認定試験ですべての能力は測れない」「資格認定がすべてではない」と語る人もいらっしゃいます。ご自身の自信に裏打ちされての発言でしょうし、資格がなくても仕事は十分にこなしてきたという実績もあるでしょう。「資格はなくてもちゃんと仕事をしている」というわけです。ともすれば、そういう人を目指せばいいとも周囲を思わせてしまいます。しかし、これは正しいのでしょうか？ 能力があれば資格は不要ということはありませぬ。むしろ、能力があるからこそ資格を取得すべきです。能力があるのなら、認定試験を受けるくらいはさほどの手間にはならないのではないのでしょうか？ 大言をおっしゃる方々は、もしかすると、単に不合格になるのを恐れているだけなのかもしれません。能力があるのなら、合格するはずですよ。試験を受けないで否定するのは消極的な批判ですよ。そして、一定の基準というものは、ベテランでも初心者でも、同様に提示されているボーダーラインであることをよく理解すべきですよ。ご自身が業界を背負っているという自負があるのなら、認定試験にも積極的に取り組む姿勢を見せるべき立場ではないのでしょうか。

認定試験についてのマイナスポイントはいくらかでも挙げることは可能ですが、プラスの部分に目を向けることで、開発者の底上げにつながることは容易に想像できます。こうした制度を活用して、個人、部署やチーム、コミュニティが常に進歩できるようになれば、自ずと結果はついてきます。

■ FileMaker 資格認定の取得のために

FileMaker 社は、FileMaker ソリューションの開発者や提供者の FileMaker 製品に関するスキルや専門的知識の所持を証明する「FileMaker Certified Developer」を推奨しています。資格認定の取得までの流れやどうすれば取得ができるのかなどを含めて、詳細を説明しましょう。

資格認定のあらまし

FileMaker 資格認定は、全世界に対して、同一の基準で行われています。資格認定を得る方法はたいへんシンプルで、対応する試験に合格することですよ。試験は1科目のみで、その他の要件はまったくありません。情報については以下のサイトに掲載されています。

資格認定を紹介している FileMaker 社のページ

<http://www.filemaker.co.jp/support/training/certification/>

認定試験の実施は、FileMaker 社が行っているのではなく、プロメトリック社というこの種の認定試験を専門に展開している会社が提供しています。試験の具体的な様子は後で説明しますが、不正がなく、公平な条件で試験が実施され、同一の判断基準で合否を決定できるというサービスを各社に提供しています。このことから、試験そのものが厳格に行われていることがわかります。

実際の試験については、全国の試験センターから会場を選び日程を予約して受験に行きます。試験は随時行われていて、年に数回だけ決められた日程でどこかに集まって行うようなタイプの認定試験ではありません。非常に重要なこととして、試験の内容に関することは、受験者は一切口外してはいけないという条件があります。試験を受けるためには、この条件を許諾しなければなりません。どんな問題が出たのかなどを、たとえば社内や仲間内で話をするこも、受験のための契約を破ることになりますので、くれぐれも注意してください。従って、他の認定試験等にあるような「過去問題」的なものも公開されておらず、試験範囲をもとに独自に学習をして、合格を目指すということが必要になります。

試験に合格すると、すぐに認定され、認定証が送られてきます。単に紙切れの認定証ではなく、ちょっとした額縁っぽいケースもいっしょに送られてきます。筆者のところへは、外資系の宅配便業者から配達されてきました。直接的にもらえるものは、これだけですが、FileMaker, Inc. の社長であるドミニク・グピール氏のサインがされているなど、ちょっとスペシャルな感じがします。

加えて、資格認定に合格していることを、名刺などに記載できます。そのためのロゴをダウンロードするページの案内が来ますので、いくつかのバリエーションのデザインから好きなものを利用すればいいでしょう。掲載に関する注意書きは英語となっていますが、概ね常識的なことしか書いていないのですが、そのロゴをご自分の Web サイトや会社の資料などのパブリックなもので利用する場合には、改めて一読して権利を侵害していないかはチェックすべきです。



認定証



名刺の一例

認定試験に合格するための知識

試験を受けるまでに、もちろん、認定試験に合格する知識を身につける必要があります。対策本があれば、安心して勉強できるかもしれませんが、FileMaker の資格認定試験にはそうしたものがありません。筆者のお奨めする学習方法については、後で紹介します。試験範囲は、下記の FileMaker 社の Web ページで紹介されています。

資格認定の試験範囲を紹介している FileMaker 社のページ

<http://www.filemaker.co.jp/support/training/certification/steps.html>

試験範囲として記載されている内容を下記に抜粋しました。

試験の対象範囲

1. 製品の技術仕様に関する知識
2. データベーススキーマの定義
3. レイアウトの作成
4. 計算ダイアログボックスを使っでの作業
5. スクリプトの作成
6. FileMaker システムのセキュリティ
7. サーバーを介したデータベースソリューションの導入
8. データの統合と移動
9. FileMaker データの Web 公開
10. 旧来の FileMaker システムから FileMaker Pro 9 への変換
11. FileMaker Pro 9 Advanced 特有の機能や特徴の活用

対象範囲となる製品や技術は、FileMaker 製品ラインのデータ統合技術：XML / XSLT / xDBC、ネットワーク技術、Web 基礎、そしてアーキテクチャです。

いずれにしても、試験対象ははっきりしていて、FileMaker 製品ということです。そして、資格認定試験は、メジャーバージョンごとに提供されます。FileMaker 7 から資格認定試験は始まっており、Ver.7、Ver.8、Ver.9 と現在までに3種類の試験が実施されてきました。現状は、Ver.9 の試験を受けることになると思われます。なお、資格は取得さえすれば無期限で有効ですが、資格そのものにソフトウェアのバージョン番号が組み込まれていますので、バージョンアップがある度に受験をするということが前提となるでしょう。

FileMaker 製品は、大きく分けて、FileMaker Pro、FileMaker Pro Advanced、FileMaker Server、FileMaker Server Advanced の4種類あります。バージョンの違いや機能の追加や改良、そして対応プラットフォームとしての Mac OS と Windows の2種の OS という点もありますが、それよりも、指定のバージョンの FileMaker 製品ラインすべてが対象であることは忘れないようにしましょう。FileMaker Pro だけではないのです。試験は72問で120分と公開されています。合格ラインについては公開されていません。この手の試験の場合、これは筆者の想像ですが、全体の得点としては、60～65%程度のところに合格ラインがあるのではないかと予想します。しかしながら、ジャンルごとの最低得点を設定している可能性があるとも考えられます。もちろん、全部正解であれば合格は当然ですが、仕切りラインは知りたいところです。非公開なのでどうしようもありませんが、アドバイスとしては、どのジャンルも、80点くらいを目指すくらいの学習が必要と考えます。また、暗記してクリアできそうなジャンルは100点を目指すくらいでないと、最終的に合格が得られるまでの得点は揃えられないと思われます。

認定試験は、日本では、日本語と英語のいずれかで受験が可能です。もし、普段から日本語で FileMaker 製品を使っているのなら、迷わず日本語で受験しましょう。一方、海外から日本に来ているような人で英語の方が得意という場合もあるでしょうし、普段は英語版の FileMaker 製品を使っている人もいるでしょう。それならば英語で受験すればいいでしょう。FileMaker 製品のさまざまな機能名称やメニューなどをきちんと把握していないと問題を解くのがかなり苦しいので、通常のアプリケーション上での言語で受験するのがいいでしょう。日本語名の「値一覧」と英語名の「Value List」では、あなたは、どちらがピンと来ますか？どちらの言語で受験しても全く同一の資格が得られます。また、資格認定には「言語」の情報はありません。日本語で合格しても英語で合格しても、認定される資格に違いはありません。原則として日本語で合格した場合でも、資格認定は世界に通用します。

試験申し込みから受験まで

実際の試験は、プロメトリックジャパンによるサービスを利用します。ここで、まず、「プロメトリック ID」という、プロメトリック社で実施している試験を申し込みするための共通の ID を取得します。この ID は無料で取得できますが、申込者等の情報がここで登録された情報が使われるので、当然ながら正しい本名で登録します（本名での登録に問題がある場合については後述のコラムを参照）。

FileMaker 資格認定試験の申し込みを受付するプロメトリック社のページ

<http://it.prometric-jp.com/testlist/filemaker/index.html>

受験費用は17,850円（税込：2008年12月現在）です。基本的には、試験が終わってから、支払います。試験は全部で72問、時間は120分となっています。試験会場や予約状況は、上記のページの「試験会場検索・予約状況確認」をクリックして、Webサイト上で確認してください。まず、場所を決めて、そこで空いている時間帯を探します。申し込みから受験まで3営業日以上必要なので、いきなり受験は限られた状況でないとできません。また、地域的な事情もあるのか、土日を利用できるかどうかや、込んでいる時間帯は場所によりさまざまです。また、試験スケジュールは45分刻みになっているので、FileMaker の資格認定試験は3枠を確保しなければなりません。予約状況を確認するときには注意しましょう。一部の試験会場では、その日に行って試験を受けることができる場合もあります。詳細はプロメトリック社のサイトを参照してください。

試験の申し込みは、オンラインで行う方法と、電話で行う方法があります。オンラインで行う方法は、Web サイトの指示に従って、前記のページから進めて行きますが、ここではプロメトリック ID による認証や、クレジットカード情報の入力などがあります。そして、受験する場所と時間をその後に指定します。そして、Web サイト上で示される申し込み結果のペーパーを印刷して、試験当日に持って行きます。

一方、電話の申し込みも可能です。この場合は、一度ファックスで申し込み用紙を送ってから、フリーダイヤルの電話番号のところに掛けて、電話口で受験する場所などを相談します。従って、1つの候補しか考えていない場合にその時間と場所が予約で埋まっている場合もありますから、候補を3つくらい考えておいて電話をするのが効率的でしょう。申し込み完了後、ファックスで受験申し込みの受領書が送られてくるので、試験当日はそれを持って会場に行きます。電話で申し込んだ場合は、受験後に振込用紙が送られてくるので、コンビニ等で入金します。

なお、受験ができない場合は、きちんとキャンセルをしないと、受験をしなくても受験料の請求がされてしまいます。キャンセルは、基本的に3営業日前までというのが原則です。

試験当日と実施に関する注意

試験申し込みが完了すると、さまざまな注意書きが記載された申し込みの受領書が送られてきます。もちろん、それをしっかり読んで欲しいのですが、まずは、身分証明を行うための2種類のものを確認し所持する必要があります。1つは写真入りである必要があります。よくあるのは、写真入りのものとして、免許証、パスポート、要件を満たす社員証などがあります。写真なしのものとしては、保険証、クレジットカード等があります。

受験当日はこの2種類の身分証明書と、申し込みの受領書を忘れないようにします。プロメトリック ID が記載されたカードも必要ですが、初めての受験では不要です。最初の試験会場で渡されます。他は何も必要ありません。ペーパー試験ではないので、筆記用語も不要です。それどころか、試験会場には一切の荷物の持ち込みが禁止されています。携帯電話なども含めて、ポケットに入れたものを試験中に出し入れしていると、不正と思われるかねないので注意が必要です。試験開始時間より早めに行くのが原則です。受領書には15分前などと書かれていますが、現実にはさまざまな手続きは前倒して進めて行くので、ぎりぎりや遅れて行くのは絶対に避けるようにしましょう。

試験会場に行くと、受付後に、荷物をロッカーに入れておくようにと指示されます。場所によってはさほど大きくないロッカーだったりするので、極力荷物は持って行かないことをお勧めします。試験開始前に簡単な説明があって、パーティションに区切られパソコンがおかれたデスクに案内されます。後は画面を見ながら試験を行います。

なお、試験は持ち込みは一切禁止されていますが、たとえばアレルギー性鼻炎の人は、ティシュペーパーを持ち込んだり、ハンカチを持ち込んだりしたいでしょう。これについては、必ず事前に試験監督の人に一言話しておいて、許可を取っておかれる事をお勧めします。また、特定の薬品などを常備したい場合も、理由を言えば一般には大丈夫です。決して、だまってポケットに入れておいて、おもむろに取り出すのはやめておきましょう。

試験中は、トイレに行くことは可能です。ただし、試験官が付き添うので、当然ながら不正行為は難しいでしょう。もちろん、あらかじめトイレは済ませておくのが原則です。

身分証明と本名について

さまざまな理由により、本名とは異なる名前を、自分の対外的な名前にしている方もいらっしゃいます。そうした方々は、免許証などの身分証明書を取得できないという事情があり、受験できなくなってしまう可能性があります。このような場合にまったく受験ができないかということ、そうでもありません。個別の事情を考慮して受験は可能となりますが、プロメトリックおよび FileMaker 社の判断が必要になります。そのため、まずはプロメトリックにコンタクトを取って、事情を説明の上、どうすればいいかということを示唆を受けてください。

コンピュータで受ける試験

実際にどんな感じの試験なのかということは気になるところです。プロメトリックでは以下のページで、その一端を見せています。試験当日の流れも含めて一度チェックしておきましょう。

受験手順を紹介するプロメトリック社のページ

<http://it.prometric-jp.com/tutorial/index.html>

試験は、問題1つ1つを画面に出しながら、それに答えて行くことで進められます。操作上で難しい部分はないと思います。オプションボタンで選択肢の1つを選ぶものや、チェックボックスで複数のものを選択するものなどがあります。複数選択が必要な場合には、その旨が問題に記載されており、間違えた個数の場合は警告が出るので、うっかりミスにつながる可能性は少ないものの、いくつ解答するのかは問題を解くためのヒントでもありますので、そうした情報はしっかり読みましょう。

なお、試験会場では、機材の導入時期が古く、液晶ディスプレイではなく、CRTディスプレイの場合もあります。液晶ディスプレイに慣れていないと、とりあえずは読みづらいと感じます。また、試験はWindowsで作られたソフトウェアなので、Macを使っている人にとっては普段とは見慣れない文字なので、ちょっと戸惑う方もいるかもしれません。これらの点はともかく受け入れて、がんばって画面の文字を読むしかありません。

問題によっては、図が出る事があります。その場合は、ボタンをクリックして図を出したり、あるいは画面に出ている図をドラッグ&ドロップして、適切なボックス内に移動することが解答になるような問題もあります。単に選択肢に答えるばかりではありませんので、その点も注意が必要です。

試験時間は120分で、問題は72問あります。ただし、いくつかアンケートもあるので、ページは少し多いと思ってください。ただ、それらは試験時間を圧迫するものではありません。単純掲載すると、1分40秒で1問です。あまりのんびりと問題に答えることはできませんので、集中力を高めてどんどんと問題を解きましょう。時間の経過は常に画面に出ています。残り時間を時々チェックしながら、どんどん進めることも必要です。

問題の中で、簡単に分かってしまうようなものもありますが、一方、じっくり考えないと分からない、あるいは考えれば答えが出るかもしれないといったものもあるでしょう。また、自信がない問題も含めて、後で見直しをしたい場合もあるはずですが、その場合、各問題の画面に「この問題をあとで見直す」というチェックがあり、最後の画面で解答の一覧が出てきたとき、チェックがあるものはすぐに分かるので、時間を無駄に使わないためにも、このチェックボックスを有効に利用しましょう。

最後の画面は解答の一覧が出ますが、そこで試験の終了ボタンをクリックすると、試験が終了します。そして、すぐに合格か不合格かが画面に出てきます。いずれの場合も、「スコアレポート」を会場で渡されますので、これは絶対になくさないようにしましょう。これ自体が合格した証拠でもあります。FileMaker TechNet や FBA のメンバーの方は、スコアレポートのあるIDをFileMaker社が運営するMembers-only Webサイトのご自分の専用ページで登録します。合格した場合はさておき、不合格した場合にでも、自分がどのジャンルの問題に弱いのが数字でわかります。スコアレポートは次の学習への指針にもなりますので、必ず持っておきましょう。

試験に合格するための学習方法

実際にどのように勉強すればいいのかということは、これから受験しようとする人にとってはいちばんの関心事でしょう。FileMaker 資格認定試験の学習のための FileMaker 情報や資料について、FileMaker 社の Web サイトに紹介されています。まずは、ここにアクセスしてみましょう。

学習のための FileMaker 情報や資料を紹介している FileMaker 社のページ

<http://www.filemaker.co.jp/support/training/certification/steps.html>

FileMaker の情報や資料の学習として、記載されている内容を下記に抜粋しました。

FileMaker の情報や資料の学習

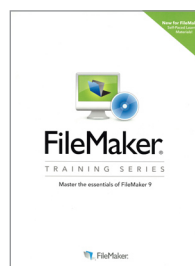
- * FileMaker Pro, FileMaker Pro Advanced, FileMaker Server, FileMaker Server Advanced の製品マニュアルを読みましょう。
- * 各製品に付属しているヘルプ項目をいろいろ調べてみましょう。ヘルプ項目は、各製品の「ヘルプ」メニューアイテムをクリックすると見られます。
- * FileMaker Technical Network に参加して、テクニカルブリーフやメンバーだけが参照できる情報（英語／一部日本語）にアクセスしましょう。
- * テクニカルサポートインフォメーションで、よくある質問や Tips を確認できます。
- * FileMaker Knowledge Base（英語）で、FileMaker の製品情報や技術情報を検索してみましょう。
- * FileMaker Training Series（英語）のトレーニング資料（CD 付きマニュアル）なら、ご自分のペースで学習できます。FileMaker Store でお求めいただけます。

また、試験に合格するための勉強法として、FileMaker 社が発売しているトレーニング教材「FileMaker Training Series: Master the essentials of FileMaker 9」があります。分厚い冊子とディスクのセットですが、とにかくその冊子をがんばって勉強するというのが1つです。ディスクには、ムービーが豊富に収録されていて、自己学習ができるようになっています。しかし、内容はすべて英語です。英語が不得意な人は大変かもしれませんが、それでもとにかく、どの辺りを学習すればいいのかが分かればいいので、ムービーを見る等しながら、それを手がかりに知識が不足しているところなどは他の書籍等で学習してもいいでしょう。価格は 12,600 円（税込）です。

FileMaker Training Series を紹介する FileMaker 社のページ（英語）

<http://www.filemaker.com/support/training/fts.html>

この書籍の情報は、英語のサイトにのみ掲載されています。その内容をもとに、テキストの内容を紹介しておきましょう。この内容を見れば、概ね試験にどんな範囲の問題が出るのかは推定できると思います。



レッスン名	内容
1. Using FileMaker Pro (FileMaker Pro を利用する)	<ul style="list-style-type: none"> FileMaker Pro 9 をユーザの視点から見た場合の諸機能について 入力や検索、印刷、インポートやエクスポート 特に、メール送信、PDF や Excel へのエクスポート
2. Working with Fields (フィールドに関する作業)	<ul style="list-style-type: none"> テーブルとフィールド定義に関する基本知識 データタイプ、オプション、入力値の自動化、入力値の制限、データの格納 画像を初めとしたオブジェクトの取り扱い FileMaker Pro Advanced のデータベースデザインレポート
3. Data Modeling (データのモデリング)	<ul style="list-style-type: none"> リレーションとその利用方法 データの完全性の確保 複数のテーブルを利用したソリューション リレーションを含むレイアウトやポータル利用方法
4. Working with Layouts (レイアウトの作成)	<ul style="list-style-type: none"> FileMaker 9 に特徴的な条件付き書式や自動サイズ変更 フィールドの動作やタブ順 状況に応じて作る値一覧 Web ビューア、タブコントロール、ツールチップに関すること
5. Calculation Functions (計算と関数)	<ul style="list-style-type: none"> 計算についての知識 カスタム関数と有効な使い方
6. Scripts (スクリプト)	<ul style="list-style-type: none"> スクリプトの効果的な利用方法 ナビゲーションやウィンドウの制御 条件分岐や繰り返し
7. Reporting (レポート作成)	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成におけるさまざまなテクニック レコードをグループに分けて小計を表示する クロス集計 Web ビューアを利用した HTML でのレポート
8. Security (セキュリティ)	<ul style="list-style-type: none"> アカウントを基礎としたセキュリティ アクセス権セットについて 外部認証およびアクセスと権限の管理 スクリプトを利用した拡張アクセス権のコントロール
9. Intermediate & Advanced Techniques (中級および上級のテクニック)	<ul style="list-style-type: none"> 値一覧とリレーショナルデータベース カスタムメニューについての詳細 ポータルでのフィルタや強調表示、プレビューといった高度な処理
10. FileMaker Server	<ul style="list-style-type: none"> FileMaker Server の製品情報や設定、管理 バックアップに関する知識
11. Connectivity (接続性)	<ul style="list-style-type: none"> ODBC や外部 SQL データソースを使った SQL システムとの統合 設定方法や FileMaker との相互運用
12. Web Publishing (Web 公開)	<ul style="list-style-type: none"> インスタント Web (IWP) とカスタム Web についての機能の理解や開発方法 PHP サイトアシスタントや IWP での実際の動作

以上がテキストの内容です。フィールド定義や計算式、レイアウト、レポートと言った基本はもちろんのこと、スクリプトやリレーションシップを伴うデータベース設計、アクセス権の設定など、初心者レベルは遥かに超えた内容となっています。また、カスタム関数やカスタムメニューと言った FileMaker Pro Advanced に対応する機能、そして FileMaker Server の運用やインスタント Web (IWP)、カスタム Web までが含まれています。つまり、FileMaker 製品すべてについての知識があり、実際に顧客に求められるレベルのソリューション開発ができるまでのスキルを得るためのコースと言えるでしょう。

基本的なことは 100%の知識を目指します。たとえば、関数とそのスペック、レイアウトの中の書式にどんなオプションがあるか、フィールドの設定に関するすべてのオプションを把握しているかといったことは、手慣れた人でも実際に FileMaker 製品を起動していないとなかなかわからず、思い出せないものです。改めて、知識を整理しつつ、暗記しておくべきこともそこそこあるでしょう。

さらに、リレーショナルデータベース関連は重要なテーマです。基本的なテーブル同士の関連付けということもありますが、その結果どうなるのかということ、リレーションシップの図から判断できるようになるくらいにまで、しっかり身につけておきましょう。そして、スクリプトについても、基本的な処理パターンにどんなステップを使えばいいかといったことは必ず把握しておきましょう。FileMaker Pro Advanced によるスクリプトのデバッグやさらにカスタムメニューについても実際にソリューションに応用できる能力が求められています。

特に最後のサーバや外部 SQL、カスタム Web となると、経験していないという人も多いかもしれません。これらをまったく知らない場合には、合格への道のりはかなり厳しいと言わざるを得ません。基本的な製品の知識と、こういった設定をするのかを、手元に環境がなくても書籍などでチェックしておく必要があるでしょう。カスタム Web については PHP のプログラミングが必要という知識は求められていますが、PHP でのプログラミングまではこの書籍では扱っていません。しかしながら、PHP サイトアシスタントが何をやるものかは知っておく必要があります。

前述のように、FileMaker Pro の関数やレイアウトといった設計から、FileMaker Pro Advanced や FileMaker Server、FileMaker Server Advanced についてのことまで幅広く記載されています。

FileMaker ソリューションの作成の学習法

FileMaker Business Alliance メンバーが実施している数々の FileMaker トレーニングや、FileMaker 関連の市販の書籍や DVD があります。試験合格のための対策法とるかはわかりませんが、FileMaker ソリューションの作成を学ぶ方法として、ご検討してみてもいいかもしれません。

FileMaker トレーニングを紹介している FileMaker 社のページ

<http://www.filemaker.co.jp/support/training.html>

FileMaker 関連の市販の書籍や DVD を紹介している FileMaker 社のページ

<http://www.filemaker.co.jp/support/books.html>

復習が大切

FileMaker の資格認定試験は、どんな問題が出るかが事前に分からないだけに、はじめて受験する場合は不合格になることも覚悟します。ただし、試験で不合格になったとしても、どんな問題が出たかをなるべくきちんと記憶しておき、次の試験でその問題に解答できるようにその後に調べるか、あるいは実際に FileMaker 製品を動かしてチェックをして、しっかり復習することを、筆者はお奨めします。

不合格の場合は 14 日間、つまり 2 週間以上を経過しないと試験を受けられないというポリシーが適用されるので、それなりに時間はあります。しかしながら、72 問もあるので記憶するのもかなり大変です。受験後、すぐにでもメモを取るのがいいでしょう。もちろん、そのメモは自分だけのものとして扱います。また、問題そのものをメモなどなんらかの形で定着させることは、試験の規約を破ることになるので、問題ではなく自分が理解すべきポイントなどを記載するためにメモをとるようにしましょう。

こうした学習プロセスを経ることで、自分のスキルの弱いところも効果的に補強できます。

■まとめ

FileMaker ソリューションの開発者、FileMaker ソリューションの提供をビジネスにしている方、社内で使用するソリューションを開発したり運用管理している方が、スキルや専門的知識を持っていることを証明し、顧客、同業者、同僚に対して高い信頼性を得ることができるのが、この「FileMaker 資格認定」です。FileMaker 製品の幅広く深い知識があれば必ず合格しますが、FileMaker Pro によるソリューション開発だけでなく、FileMaker Pro Advanced の機能や FileMaker Server や FileMaker Server Advanced に関するものも含めて幅広く出題されるので、広範囲な知識は必要です。

認定試験に合格して資格を取得しても、目に見える成果物は認定証と名刺にロゴを刷り込めるということに限られます。しかしながら、特に自分自身の技術力をベースにしてサービス提供を行う開発者にとっては、一定水準以上であることを客観的に証明できる唯一の手段でもあります。しかも、FileMaker, Inc. が認定する唯一の資格です。また、FileMaker 開発者の雇用や選択の基準にもなります。資格認定に対して、開発者も依頼を行う顧客も目を向けるべきです。特に開発者は認定取得に真剣に取り組むべきでしょう。

また、読者の参考のために筆者の Web サイトで、FileMaker 資格認定に併せて取得をご検討されたらソリューション開発ビジネスに役立ちそうな、その他の資格認定について紹介しています。ご参考にしてみてはいかがでしょうか？

<http://msyk.net/fmp/cert.html>

■著者紹介

新居雅行（にいまさゆき）。フリーランスのテクニカルライター、コンサルタント。FileMaker 9 Certified Developer、FileMaker 8 Certified Developer、Apple Certified System Administrator 10.4、Apple Certified Trainer 10.5、.com Master ★★ 2003。日経パソコン編集部を経てライターとなり、コンピュータ分野の雑誌やニュースレターに寄稿するとともに、100 冊を超える著書がある。主要な著書に「FileMaker Server 大全」「新 リレーションで極める FileMaker」（いずれもラトルズ）、「Excel のカラクリ」（技術評論社）などがある。また、コンサルタントとしてアプリケーションソフトの日本語化やユーザビリティ評価、システム導入等を行ってきた。連絡先などは、<http://msyk.net> を参照。

www.filemaker.co.jp